



令和4年度『予算特別委員会』報告!

2月28日(月)から3月14日(月)まで予算特別委員会が開催。関根まみ子区議は、委員の一員として要望と提案を行いました。以下、その一部を紹介します。



実現 SDGsの推進について

問 区民が自らSDGsへの行動を起こせるように、様々な策を講じるべき!

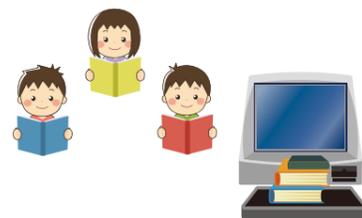
答 「SDGsフェス」やSDGsポイントアプリの導入、熟年者向けSDGs冊子も作成する。



実現 学校図書館への区立図書館サテライト導入について

問 子ども達へのセキュリティ対策と蔵書管理システムを早急に拡充すべき!

答 外からの出入りの安全な動線の確保を図る。蔵書管理システムは2、3年で全校に導入していく。



サテライトとは?
学校図書館を活用し、区立図書館のサテライトとして、図書の返却や予約した図書の受け取りも行う。(まずは5校から。水・日曜日)

実現 ヤングケアラー支援について

問 本区の子ども達の実態調査を行い、状況を把握するとともに、確実に支援につなげるべき!

答 1学期中に、全中学校の全生徒を対象として面談を行い、実態把握をする。スクールソーシャルワーカー等を通じて、児童相談所や関係機関につなげ、家事・育児の負担軽減の支援を行っていく。



実現 ひきこもり対策について

問 当事者どおしのピアサポートや、情報が確実に届くようSNSを使ったプッシュ型通知の導入をすべき!

答 専門支援員の増員で訪問支援やオンライン居場所を実施する。条例の制定・講演会、職員向け勉強会・ピアサポーターの養成を行っていく。



実現 重度障がい者対応グループホーム助成について

問 今後の更なる拡充をすべき!

答 これまで、人手の問題で受け入れる施設が少なかったが、区が助成することで、今後受け入れを上げていきたい。



実現 食品ロス削減の更なる推進を

問 新たな取り組みを加速化させ、フードドライブの常設回収場所の増設を!

答 都内初「食品マッチングアプリ」を導入する。フードドライブは、民間事業者や団体と連携し常設場所の増設に取り組んでいく。



フードドライブとは?
家庭で使いきれない未使用食品を持ち寄り、それらをフードバンクや福祉施設に寄贈する活動のこと。

実現 オンライン相談について

問 乳幼児家庭へのオンライン相談の導入を早期にすべき!

答 令和4年度から、「ぴよナビえどがわ」を活用し、オンライン相談を開始する。里帰り中でも可能となる。



実現 医療的ケア児の受け入れについて

問 安全に配慮した万全な体制と、緊急時の対応や関係者への理解・周知の徹底をすべき!

答 主治医との連携のもと入園準備を行い、安全委員会や「医療的ケアの要綱」を策定する。医療的ケアの手引きも用いて、緊急体制の構築及び理解・周知を図る。



医療的ケア児とは
人工呼吸器による呼吸管理や痰吸入などの医療行為を、日常的に必要とする子どものこと。

実現 ベビーシッター利用支援事業について

問 拡充された内容や、子育て支援情報を広く周知すべき!

答 未就学児であれば、一時預かり支援としてリフレッシュに活用でき、最初の16時間は全額補助をする。情報を得やすいように、AIチャット等を工夫して取り組む。



災害時用のマンホールトイレについて

問 避難所での設置の拡充と、女性の視点の活用を!

答 地下に汚物を貯めたり、水を流すことができる最新型のマンホールトイレを、令和4年度は10校に設置予定。防犯上、透けないパネル式に変更し、災害時は治安に関する監視も行う。



実現 春江橋架け替えについて

問 春江橋側道にある地元町会の倉庫の移動については、要望に沿った対応をすべき!

答 工夫できる範囲で、地域の皆さまのご要望に沿った形で移動時期や移動場所を調整していきたい。



実現 がん患者のアピランス(外見)ケアについて

問 外見の変化に苦痛を感じるがん患者のために、医療用ウィッグなどのアピランスケアへの助成金を!

答 大変重要である。他の公費での助成とのバランスについて今後研究していく。



実現 子宮頸がん予防接種について

問 積極的勧奨再開にあたり、接種機会を逃した方に対して、キャッチアップ接種(接種機会の確保)を迅速にすべき!

答 平成9年度から平成17年度生まれまでの女子を、キャッチアップ接種の対象とし、スピード感を持ち、実施していく。



実現 全小中学校で展開する放課後補習教室について

問 民間の力を活用し、子ども達の学びの意欲を大事にしながら、学力向上につながる取り組みを!

答 子ども達の変化を大事にし、一人ひとりにきめ細かい指導を行い、自己肯定感につながるよう進めていく。



実現 不登校対策について

問 不登校の子どもの居場所を確保し、出席日数につなげるために、個票システムの見直しを図るべき!

答 学校や学校外施設、外部人材等を活用し、子どもがつながる力をつける。学校サポート教室の環境改善や、個票システムの分析を生かし、スクールソーシャルワーカー中心に実効性のある対策を図っていく。

